

指導者が持つ社会的勢力基盤の性別とレベル別における差についての研究 A study of the difference of coach's social effects between player's gender and level

1K09B203-1
指導教員 主査 堀野博幸 先生

森部 竜也
副査 内田 直 先生

【目的】

現在、様々なスポーツ競技において、監督や指導者が多く存在する。選手の目標を達成させようとする指導者は、競技者にとって非常に重要な存在である。

先述の通り、現在指導者は数多く存在し、その人となりや指導方法などもそれぞれに違いがある。しかし有効とされる指導方法が、万人に効果的に作用するとは限らない。そこで、現在現場で行われている指導を知り、分析することで、今後の更なる指導の発展に繋がるだろう。

そして効果的な指導を考えるにあたり、指導の現場は監督やコーチと選手によって形成されているため、指導者だけでなく被指導者の側面からも検討が必要であると感じた。被指導者が指導者に対しどのように感じているかを知ることにより、より効果的に被指導者に対し良い影響を与えることができるだろう。

先行研究では、森ら(1990)がスポーツにおける指導者の持つ社会的勢力の基盤と効能を明らかにした。しかしこの研究における調査対象は、「高校運動部に所属する高校1、2年生389名(男子126、女子263名)」であり、一般化された研究結果となっている。しかし集団ごとに環境の違いは当然ある。

本研究では、各チームの潜在的要因を被指導者の性別とレベル別に分類し、森らの先行研究を基にそれぞれの差を比較検討した。

【方法】

平成24年7月から9月にかけて質問紙調査を行った。本研究では性別に加え、レベル別に検討することを目的としているため、「平成23年度高校バレーボール関東大会東京都予選」に出場し、ベスト4以内、またはベスト16の成績を収めたバレーボール部に所属している選手とした。

今回はベスト16のチームから72名(男子38名、女子34名)、ベスト4以内のチームから77名(男子37名、女子40名)の協力を得ることができた。

質問紙は、森らの「指導者の持つ社会的勢力の測定」と「指導者からの影響に関する測定」で使用されていた質問紙を同様に使用した。「指導者の持つ社会的勢力の測定」で得た回答を基に因子分析を行い、親近・信頼性、正当性、専門・参照性、罰の4つの勢力が得られた。性別、レベル別に重回帰分析を行った。これを各勢力得点とした。また「指導者からの影響に関する測定」で得た回答を被影響感、満足度、練習意欲に分類し、これを影響尺度得点とした。

これらを性別、レベル別に分類し、勢力得点を説明変量、

影響尺度を目的変量とした重回帰分析を行った。

【結果】

性別における分類では、女子は親近・信頼勢力を、男子は専門・参照勢力が最も各影響尺度に対し影響を与えていた。

レベルにおける分類では、高レベル群(H群)は正当勢力と専門・参照勢力を、低レベル群(L群)は親近・信頼勢力を基盤にしていることが明らかになった。

表1 各分類における中核勢力基盤

性別	女子		男子	
中核勢力基盤	親近・信頼		専門・参照	
レベル	H群	L群	H群	L群
中核勢力基盤	正 当	親近・信頼	正 当	親近・信頼
	専門・参照		専門・参照	

最終的にPM理論を用いて指導者の各分類における状況をまとめた。結果はH群女子はPM型、L群女子はpM型、H群男子はPm型、L群男子はpm型、もしくは弱いPM型であると解釈できた。

また興味深いことに、各勢力基盤のうち罰勢力だけは各分類において、全ての影響尺度に対し負の相関を示した。

【考察】

各分類において、基盤とされている勢力基盤が異なっていることが理解できた。したがって、PM理論でまとめた際に、それぞれの特徴が顕著になったことは容易に推測できる。

PM理論において、PM型がもっとも理想的なリーダーであると考えられている。これはスポーツにおける指導者も例外ではなく、各分類の指導者それぞれが、最終到達点に設定すべき目標である。

またPM理論においてP機能、M機能ともに維持、改善を行うには統制が必要である。そして統制の手段として罰勢力が行使されていることが多い。しかし罰勢力は複雑な要因が関わりあって作用を及ぼすため、罰勢力の行使には細心の注意を払う必要がある。

以上より、指導者は先に述べた各分類群の社会的勢力基盤から今後の指導の方向性を定め、適度な罰勢力による統制を行うことで、有効的な指導を行うことができるだろう。